あいさつ

教育長　　柿沼 光夫

久喜市放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」が市内各小学校で実施され、多くの児童が参加して活動できたことは、各ゆうゆうプラザの実施委員会を中心に、企画・運営に携わる委員の皆様をはじめ、講座の指導者、保護者サポーター、そして地域の方々、学校関係者他多くの皆様の深いご理解とご尽力の賜と、心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が未だ収束していない状況が続いております。ワクチン接種の開始により、年末には感染者数は減少し、少しずつ明るい兆しが見えてまいりましたが、年明けになりオミクロン株の影響等により急激に感染が再拡大し、各校において新たな感染対策の徹底をお願いいたしました。このような状況の中、ゆうゆうプラザは昨年度に引き続き基本的な感染症対策を継続し、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り実施していただきました。関係の皆様方のお骨折りに改めてお礼を申し上げます。また、コロナ禍の取組として、新たな動画配信やオンラインによる講座、近隣のゆうゆうプラザとの共同実施など、創意工夫を凝らした実践も数多く行われました。そして、中学生ボランティアの参加による世代を超えた交流など、関係者の方々による和やかな会場運営の様子や子どもたちへの愛情に満ちたまなざし、友達と夢中になって笑顔で活動している子どもたちの姿をたくさん見かけました。重ねてお礼を申し上げます。

今子どもたちには持続可能な社会の創り手として、未来を拓き、よりよい社会と幸福な人生を育む力が求められています。そのためには、社会総がかりの教育の実現を目指し、学校、家庭、地域は教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に協力し合い、地域全体で子どもたちの学びを展開する環境を整えていくことが必要です。放課後子ども教室の実践は、地域の教育力の向上、子育て環境の整備、更には地域の活性化にもつながります。今後も放課後子ども教室がこれまで以上に地域に根付き、力強く発展していくことを願っています。

結びに、日頃から放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」の諸活動を、熱心に推進していただいております久喜市放課後子ども教室運営委員会の皆様方に敬意を表しますとともに、各ゆうゆうプラザのより一層のご発展を祈念申し上げます。

運営委員会会長　　飯島 祐紀夫

令和２年１月に発生した新型コロナウイルス感染症という未曽有の災害に見舞われて２年が過ぎましたが未だに収束の兆しも見えません。どれだけの人たちがこんなにも長引くと予想されたでしょうか。このようなコロナ禍にもかかわらず、久喜市放課後子ども教室－ゆうゆうプラザ－の活動にご尽力をいただいた各ゆうゆうプラザの実施委員をはじめ、講座指導者、地域や保護者サポーターの方々、学校関係者等の皆様に心から深い敬意と感謝を申し上げます。

さて、今年度のゆうゆうプラザの活動は２２校中１９校で開校されました。この内２校で動画配信やオンラインによる活動、３校が残念ながら今年度の活動は中止となりました。登録児童数は２，２５３名、登録サポーター１，８８３名の多くの方々に係わっていただきました。実施されたゆうゆうプラザにおいてはこれまで以上に感染対策（体温測定、手指の消毒、マスクの着用、３密の回避等）を講じたうえでの活動となり、関係の皆様のご苦労に改めてお礼を申し上げます。

また、コロナ禍の活動はその内容も考慮されたものになり、活動日数や講座なども学校や地域の実情に即した活動となりました。今までは別々であった学校行事とゆうゆうプラザの活動が連携した取り組みも見られました。校内持久走大会とゆうゆうプラザとの連携、全校児童を対象とした農業体験活動、地域スポーツ団体との活動、隣接した学校のゆうゆうプラザによる共同実施など、コロナ禍に見舞われたことによる新しい取り組みが見られました。各教室においては、子どもたちと大人のたくさんの笑顔に出会いました。コロナにより学校が長期にわたり休校になった時、大人が心配したのは授業の遅れであり学力の低下でした。それに引き換え子どもたちが望んだのは、友だちと思いっきり遊ぶことでした。しかし、人の集まる場所や公園などでの遊びも止められ自宅で過ごすことが求められました。遊びは子どもの最大の「仕事」といわれます。その「仕事場」が社会変化と共に失われました。特に、野外でのスポーツ遊びや自然との触れ合いなど見ることがなくなりました。そのために子どもたちの運動不足や免疫力の低下などが心配されています。

このような時代だからこそ、子どもたちには額に汗して思いっきり遊んでほしいと思います。終わりに、各ゆうゆうプラザのなお一層のご理解とご協力を賜ります様お願い申し上げます。